

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第26週 (6/26-7/2) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		26週	25週	24週	23週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	4
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	注意報	千葉市				千葉県
			6/26-7/2	6/19-6/25	6/12-6/18	6/5-6/11	6/19-6/25
			26週	25週	24週	23週	25週
小児科	RSウイルス感染症		1	1	1	3	28
	咽頭結膜熱	○	14	14	7	10	152
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		49	71	55	64	557
	感染性胃腸炎		108	108	117	124	665
	水痘		11	13	10	10	59
	手足口病	○	80	37	21	20	115
	伝染性紅斑		0	0	0	2	6
	突発性発しん		13	12	14	15	70
	百日咳		0	0	0	0	2
	ヘルパンギーナ		33	29	21	6	77
	流行性耳下腺炎		5	3	5	6	45
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		4	2	7	5	15
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	1	0
	流行性角結膜炎		6	10	1	7	34
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		1	0	0	0	5
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	1	1

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(13件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出等	アメーバ赤痢	男性	50歳代	病原体の検出
結核	男性	60歳代	病原体の検出	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	60歳代	細菌の検出、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定
結核	男性	60歳代	病原体等の検出				
結核	男性	60歳代	病原体等の検出	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	70歳代	病原体の検出
結核	男性	70歳代	病原体等の検出	梅毒	男性	20歳代	血清抗体の検出
結核	女性	60歳代	病原体等の検出等	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
結核	女性	90歳代	病原体遺伝子の検出	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出

・第26週は、結核7件(112)、アメーバ赤痢1件(1)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(9)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(20)、梅毒3件(20)の報告があった。

※ ( )内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

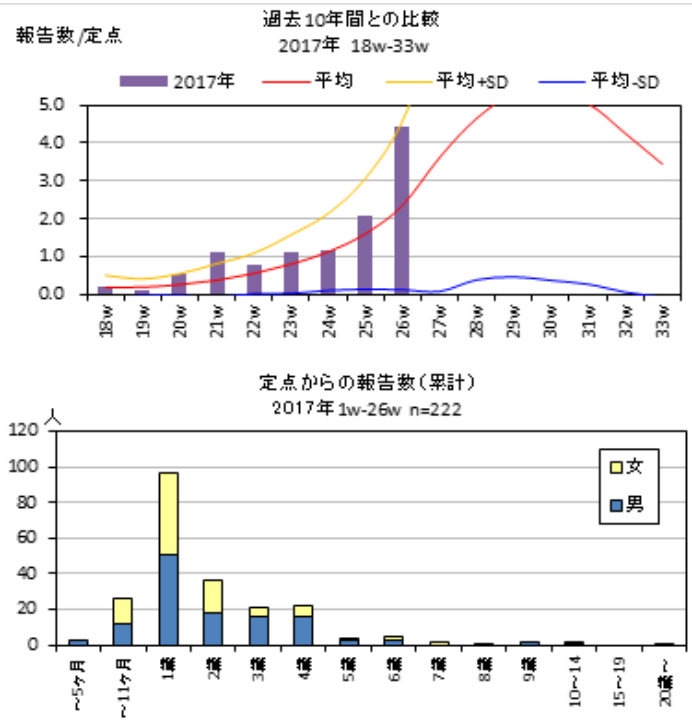
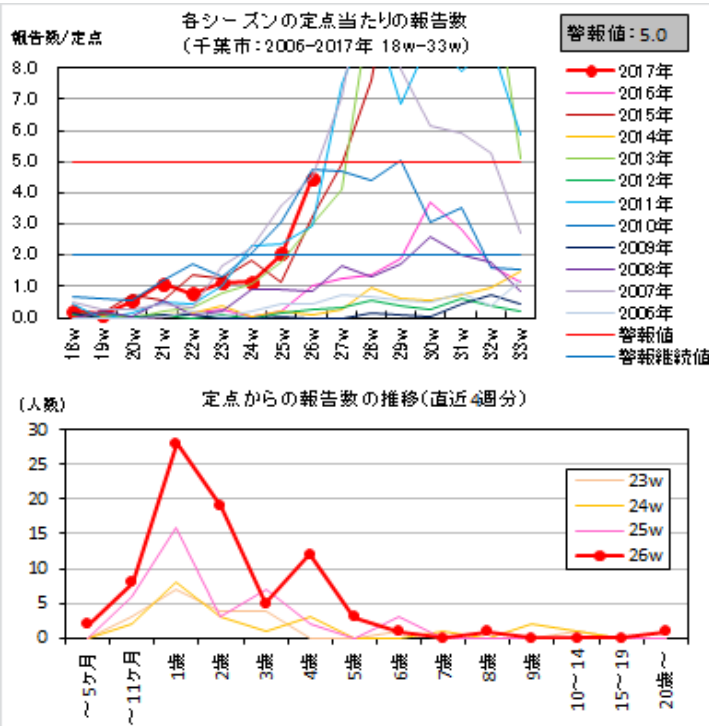
## 定点当たり報告数 第26週のコメント

＜咽頭結膜熱＞前週から横ばいで0.78のまま。過去10年の同時期と比べると多い。  
 ＜手足口病＞前週より増加し4.44となった。過去10年の同時期と比べると多い。

### トピック

#### ＜手足口病＞

全国レベルの第25週は、過去9年の同時期と比べ多めとなっています。都道府県別では、高知県、鳥取県、香川県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の第26週は前週より更に増加し4.44となり、流行発生警報開始基準値に近づきました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。例年の発生動向では今後更に増大する可能性があります。区別の発生状況は、稲毛区(8.00/定点)及び緑区(7.25/定点)で流行発生警報開始基準値(5.00/定点)を上回り最も多く、共に1歳で最も多く発生報告がありました。2017年第1週から第26週までの累積報告数(n=222)によると、性別では男性が56.8%(126名)、女性が43.2%(96名)で、年齢階級別では1歳(43.7%:97名)、2歳(16.2%:36名)、6か月～11か月(11.7%:26名)の順に多くなっています。



#### ＜咽頭結膜熱＞

全国レベルの2017年第25週は過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では山梨県、鹿児島県、北海道の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2017年第26週は前週から横ばいで0.78のままですが、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(1.67/定点)で最も多く、同区の6～11か月で最も多く発生報告がありました。2017年第1週から第26週までの累積報告数(n=102)によると、性別では男性が67.6%(69名)、女性が32.4%(33名)で、年齢階級別では1歳(32.4%:33名)、3歳及び4歳(共に12.7%:13名)の順に多くなっています。

